

平成25年11月12日(火)

八ヶ岳南麓里山再生・農業支援友の会

会員の皆様へ

## 《農場便り》

「節目」

大陸からの寒気の襲来が始まりました。今朝は今シーズン初めての氷点下となりました。11月一杯で夏野菜の後片付けを終わらせることが来シーズンに向けての準備の始まりとなります。お陰さまでこの9日には満65歳の誕生日を迎えました。厚生年金保険老齢給付の手続きがありました。前期高齢者の仲間入りです。これはこの国の医療制度の世界の話、小生には関係ありません。就農して丸5年を来年2月に迎えます。また、ここ大泉に来て丸4年が経過しました。更に自然栽培に本格的に取り組んで4年、「光陰矢の如し」、時間がいくら有っても足りません。ましてや季節と共に生きる農業の世界では一年、一年が命がけとなります。この5年間で漸く農を真ん中に置いた暮らしの基礎作りを終えることが出来ました。これも会員の皆様の暖かいご支援の賜物と心より感謝しております。畑9反歩、田んぼ6反歩あわせて1町5反歩の面積の耕作は年々肉体的には厳しさを感じます。しかしそれ以上に奥が深いと同時により良い野菜作り、米作りへの挑戦意欲が上回り健康に毎日楽しく農に従事できています。有難い事です。65歳と言っても還暦、古希とか特別な意味はなく年を重ねる一過程ですが小生にとっては次の5年、10年への始まりです。環境にも、健康にも良い循環型農業である無農薬、無肥料での自然栽培をこの八ヶ岳南麓の地域での取り組みに広げることが出来ればと願っております。経済は益々グローバル化の道を進んでいます。日常生活上では大なり小なりこのグローバル化の波を受けています。しかしそれぞれの土地に根ざした農ある暮らしは極めてローカルなものです。先祖伝来の大地と自然の恵みである湧水、太陽、長い歴史を経た在来種の種、年を重ねた百姓、就農した若者達等地域の資産、資源は数多くあります。農業面でも大規模化を進め、効率を求めるには急峻な狭い国土は条件不利なのです。しかし視点を変えればこの国でしか出来ない農業の道もあるでしょう。その道を探り続けたいと「節目」に思いました。

- ・ 自然栽培役員会 ワイン牛ですき焼き(11/7)
- ・ 玉ねぎ植え付け(11/9)



メール [yamaki.yoshio@peach.plala.or.jp](mailto:yamaki.yoshio@peach.plala.or.jp)

携帯080-3080-3017